大渕八王子の　井戸神様

昭和六十年十月五日号

大渕の八王子一丁目に井戸神様と呼ばれる大きな石の碑と十九個の小さな石の碑があります。

これは、水がなくて困った大渕地区の昔の人が井戸を掘り、水が出た十九の井戸の石を水に感謝する意味で祭ったものです。

苦労して掘った井戸

昔、大渕は水がなくて水無し村と呼ばれていました。雨が降ると、水をタンクや水かめに集め、飲み水にしたり、洗濯やおふろに使いました。

でも、水はまったく足りないので、小さい子供たちも遠くの沢まで水くみに行きました。それはそれは大変な仕事でした。特に冬になると雨の降らない日が何日も続き、野菜はしおれ、食べる物も少なくなってしまうほどでした。

井戸神様に感謝する大渕幼稚園の子供たち

そこで、みんなで深い井戸を掘ることにしました。苦労して掘っても水はほんの少ししか出ませんでした。

しかし、あきらめずに何年もかかってあっちこっちを掘り、とうとう水の出る井戸を十九個も作りました。村の人たちは「おいしい水をありがとう」と大喜びしました。そして、井戸を掘ったとき出てきたたくさんの石の中からよい石を一個ずつ選び、十九個の石を水の神様としてみんなでお祭りしました。

昔は苦労したようです

稲垣和好さん（大渕）

井戸神様の隣に住む稲垣和好さんは、「このあたりは水がなくて、昔の人は苦労をしたようです。私より二代も三代も前の人が、ここへつるべ井戸を掘り、随分楽になったと聞いています。今は、水を何の気なしに使っているけど水のありがたみを忘れちゃいけないね」と語ってくれました。